

令和8年度A日程  
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて7ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に  
**受検番号**を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

受 検 番 号



【鑑賞文】

選んだ短歌

著作権保護のため掲載していません。

私を感じたこの作品の魅力は、コスモスのはかなさとさびしさを表現しているところですが、まず、風に揺れるコスモスが思い浮かびます。その花びらはとても薄く、陽の光で透けると、作者にはむらさき色に見えたのだと思います。作者が、感覚を研ぎ澄ませてコスモスをとらえていることが分かります。毎年咲くコスモスですが、去年と同じ花ではありません。今年の秋を精一杯生きている今年のコスモスの姿が、最後まで読むと伝わってきます。結句を「コスモス」でおさめ、焦点を絞る **b** が使われています。 **b** は、余韻や簡潔で引きしまった印象を残す効果がある表現技法です。そのため、読んだ後に、コスモスのはかなさやさびしい印象が残りました。

1 【資料】中の——線部の「見かける」の活用の種類を、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 五段活用      イ 上一段活用      ウ 下一段活用      エ カ行変格活用

2 【資料】中の **a** に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 倒置      イ 対比      ウ 反復      エ 省略

3 【資料】で述べられている内容を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 意外性のある比喩を考えて使うと、新鮮味が感じられる歌になる。  
イ 主語にはじまって述語で終わると、作者の個性があらわれた歌になる。  
ウ 結句を意識しておさめることで、一般的でよく目にする歌になる。  
エ 短歌に句切れをつくることで、結句までひとつながりになった歌になる。

4 【鑑賞文】中の——線部の「さびしさを表現しているところだ」から、助詞をすべてそのまま抜き出して書きなさい。

5 【鑑賞文】中の **b** には、はるかさんが選んだ短歌で使われている表現技法が当てはまる。 **b** に当てはまる言葉として適切なものを、【資料】中から**五字以内**でそのまま抜き出して書きなさい。

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「ただの看板のひとつに過ぎない」とあるが、筆者がここでいう「ただの看板のひとつに過ぎない」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 建築にとって設計者の名前は、建築の価値を証明するものでしかないということ。
- イ 建築にとって設計者の名前は、建築の名誉のためにはなくてはならないものだという事。
- ウ 建築にとって設計者の名前は、建築空間を完成させる要素として欠かせないということ。
- エ 建築にとって設計者の名前は、建築の魅力には大きな意味を持たないということ。

(二) 文章中の□に当てはまる言葉として最も適切なものを、文章中から**九字**でそのまま抜き出して書きなさい。

(三) 文章中の——線部2に「いい歳の取り方ができると思います」とあるが、筆者は「いい歳の取り方」を、住まい手がどうすることだと述べているか。その内容を、「時間」という言葉を必ず使って、**三十五字以上四十五字以内**で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(四) この文章の内容と構成を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 初めに、筆者が自分の名譽に執着しなくなった理由を述べ、次に、日本建築の茶室に見られる侘び寂びの成立理由を語り、最後に、建築のあるべき姿について述べている。
- イ 初めに、建築の素晴らしさと設計者の名前が無関係であることを明らかにし、次に、日本と西洋の建築の違いを指摘し、最後に、建築のあるべき姿について述べている。
- ウ 初めに、筆者が惹きつけられる建築とその理由を示し、次に、新築にはない建築の美しさや自らの今後の展望について述べ、最後に、建築のあるべき姿について述べている。
- エ 初めに、二人の人物とそれぞれの魅力的な作品を取り上げ、次に、人が建築の魅力を引き出すための関わり方について触れ、最後に、建築のあるべき姿について述べている。

三 次の文章を読み、後の(一)・(二)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「期待していたようにことが運ぶ」とあるが、読書をしていて「期待していたようにことが運ぶ」とはどういうことか。その内容を、**三十**字以上**四十**字以内で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(二) 文章中の——線部2に「そういう意味で、読書はその一冊で完結するのではなく、未来へと続いていく『線』のような行為だと見えるでしょう」とあるが、このように述べているのは筆者が読書をどのように考えているからか。また、そのような筆者の考えについて、あなたはどのように考えるか。次の**条件1**と**3**にしたがって書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を**百**字以上**二百**十字以内にまとめること。

**条件2** 最初に、筆者の考えを「将来の読書」の言葉を必ず使って説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

**条件3** 自分の考えについては、なぜそう考えるかという理由を明らかにして書くこと。

【四】 次の文章は、この国の帝に仕える中將の話である。後の(一)～(四)の問いに答えなさい。( ) ……の左側は現代語訳です。

唐土の帝、この国の帝をいかではかりて、この国打ち取らむとて、常にこころみ事をし、  
中国 もろこし どうかしてだまして、 奪おつ 知恵をためし、

あらがひ事をして、おそりたまひけるに、つやつやとまろにうつくしげに削りたる木の議論を吹きかけて、(この国の帝は脅威を感じておられたが、 丸く

二尺ばかりあるを、『これが本末もとすえいづ方』と問ひにたてまつれたるに、すべて知るべきやう  
どちらか 問いかけるために献上したけれども、まったく知るべき方法が

なければ、帝おぼしわづらひたるに、いとほしくて、親のもとに行きて、『かうかうの事  
お困りになっているときに、(中將は)気の毒に思つて、

なむある』と言へば、『ただ早からむ川に、立ちながら横さまに投げ入れて、返りて流れ  
流れの早い川 横向きに 方向を変えて

む方を末とするしてつかはせ』と教ふ。まゐりて、我知り顔に、『さてこころみはべらむ』  
送りなざるがよ、(中將は帝のもとに)参上して、自分だけが知っているという顔つきで『それではためしてみましよう』

とて、人と具して投げ入れたるに、先にして行く方に、しるしをつけてつかはしたれば、  
といて、人を連れて

まことにさなりけり。  
そうなのであった

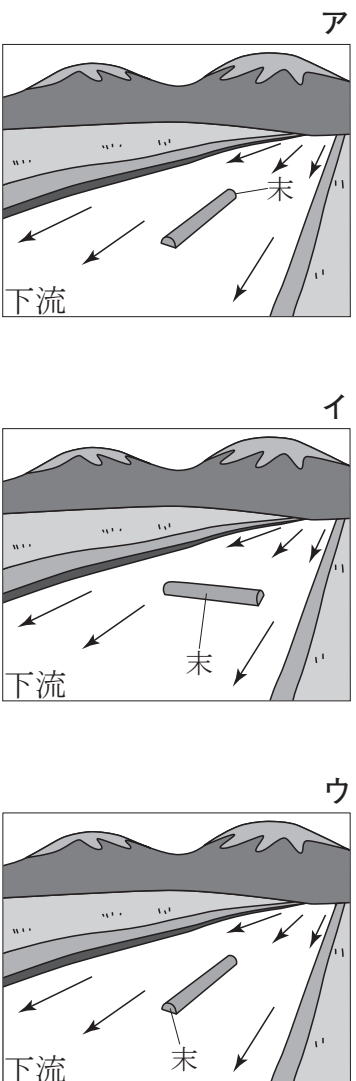
(清少納言『枕草子』による)

(一) 文章中の~~~~線部の「いとほしくて」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひらがな  
で書きなさい。

(二) 文章中の——線部の「教ふ」の行為を行った者は誰か。次のア～エから一つ選び、その記号  
を書きなさい。

- ア 唐土の帝      イ この国の帝      ウ 親      エ 中將

(三) 文章中の——線部に「これが本末いづ方」とあるが、この文章で述べている本と末の見分け  
方を、簡潔に表した図として適切なものを、次のア～ウから一つ選び、その記号を書きなさい。



(四) 「枕草子」の作品の種類として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 随筆      イ 物語      ウ 日記      エ 紀行文